

kodan 康壇

脳機能の代名詞であるDHAに新たな可能性が見出された。八洲商事(静岡市清水区)は、かねてから福永准教授・関西大学主導の下、同社製DHA原料「ツナミン」の血压降低に関する有効性を検証してきた。以前、同社ボランティアによるモニター試験で良好な結果を得ており、それを裏付ける試験結果となった。これまで血压との相関性を示したデータはほとんど出ていないため、脚光を浴びている。今後、商品開発などへの応用が進み、市場がさらに広がっていくが注目したい。

同社製品「ツナミン」は、DHAを約30%含有しEPAやビタミンEを約30%含有しEPAやビタミンDが影響しているとも推測されただ。その血压降低作用は、ツナミンを増加させることも明らかになった。中温でのハイブリット抽出法で精製している。そのため、従来DHAは酸化しやすいことがネックであった。以前、同社ボランティアによるモニター試験で良好な結果を得ており、それを裏付ける試験結果となつた。これまで血压との相関性を示したデータはほとんど出ていないため、脚光を浴びている。今後、商品開発などへの応用が進み、市場がさらに広がっていくが注目したい。

血圧とDHAの

相関性に新展開

日本の市場性は海外に比べるとやや遅れているが、2010年版食事摂取基準では、EPA/DHAの目標量として1日1gの摂取が望ましいと定義されている。従来の脳機能や抗ストレスロールだけではない提案が期待できそうである。

DHAは、世界中で機能性評価の実施する研究とは反比例して、日本における市場の広がりの遅れす動きは活発だ。以前から指摘されている。1つには、DHAの認知度はあるものの、商品化において分かりやすいコンセプトが訴求できていないといふのが、これまで血压に関するDHAの機能性は明らかにされていなかつたため、関心を集めている。従来の脳機能や抗ストレスロールだけではない提案が期待できる。

は、業界を代表しDHA・EPA商品開発が進むことで、市場全体の底上げを期待したいところだ。

新

一環で講演会を毎年行っている。神経に及ぼす影響、抗心血管疾患に対する効果、抗炎症作用など多岐にわたり第11回講演会が開催された。香川靖雄教授・女子栄養大学らが登壇し、DHAの摂取はメタボ合併症の治療および改善に期待できるものもある。米国FDAが積極的に魚食を推奨するなど、欧米を中心で摂取を見直す動きは活発だ。

進展する研究とは反比例して、日本における市場の広がりの遅れは、DHAの機能性を報告した。

佐々木食品工業(大分県豊後高田市、☎0978・22・23395)は、富山大学大学院医学薬学研究部生薬学研究室・林利光教授との共同研究で、ネギ抽出物が新型インフルエンザ(H1N1型)感染症予防作用を持つことを実証した。今後はさらにネギの生理活性に関する追及し、近日実施した試験はマウスにA型インフルエンザを鼻から感染させ、ネギの熱水抽出物をウイルス感染1週間前から2週間にわたり経口投与を計画している。

新

オルニチン研究会発足

疲労軽減能力など情報を発信

遊離アミノ酸の一種「オルニチン」に関する情報をお伝えする

医歯学総合研究科環境医学研究分野准教授)村田裕子氏(管理栄養士、料理研究家)らである。協賛企業は、カシロ、協和

ルティングス、永谷園、

オルニチンの効果・効能

10月28日に設立された。

内沢氏は「ジミエキ

チ」といふ

の飲酒習慣がある勤労

者を対象に1日400mg

を摂取させる二重盲検試験を実施した結果、①D

HES-S/コルチゾー

ル値②起床時の疲労回復

の体感③抗うつ・落ち込

みの自覚などが有意に改

善した。日頃疲れを感じ

ている方に対しても、継続

して①オルニチンに関する

最新知見の収集・提供

する

啓発③公式ウェブサイト

(http://orntime.jp)

の運営④一般消費者

およびメディアを対象に

した各種セミナーの実施

などを進めていく。

の筋肉増強補助作用や酸

素

を構成しない遊離アミ

ノ酸として体内に存在し

ている。摂取すると腸で

吸収し肝臓や腎臓、筋肉

に移行することが知られ

ている。たん白質の合成

を促進すると強調し

た。内沢氏は「ジミエキ

チ」といふ

の筋肉増強補助作用や酸

素

を構成しない遊離アミ

ノ酸として体内に存在し

ている。摂取すると腸で

吸収し肝臓や腎臓、筋肉

に移行することが知られ

ている。たん白質の合成

を促進すると強調し

た。内沢氏は「ジミエキ

チ」といふ

の筋肉増強補助作用や酸

素

を構成しない遊離アミ

ノ酸として体内に存在し

ている。摂取すると腸で

吸収し肝臓や腎臓、筋肉

に移行することが知られ

ている。たん白質の合成

を促進すると強調し

た。内沢氏は「ジミエキ

チ」といふ

の筋肉増強補助作用や酸

素

を構成しない遊離アミ

ノ酸として体内に存在し

ている。摂取すると腸で

吸収し肝臓や腎臓、筋肉

に移行することが知られ

ている。たん白質の合成

を促進すると強調し

た。内沢氏は「ジミエキ

チ」といふ

の筋肉増強補助作用や酸

素

を構成しない遊離アミ

ノ酸として体内に存在し

ている。摂取すると腸で

吸収し肝臓や腎臓、筋肉

に移行することが知られ

ている。たん白質の合成

を促進すると強調し

た。内沢氏は「ジミエキ

チ」といふ

の筋肉増強補助作用や酸

素

を構成しない遊離アミ

ノ酸として体内に存在し

ている。摂取すると腸で

吸収し肝臓や腎臓、筋肉

に移行することが知られ

ている。たん白質の合成

を促進すると強調し

た。内沢氏は「ジミエキ

チ」といふ

の筋肉増強補助作用や酸

素

を構成しない遊離アミ

ノ酸として体内に存在し

ている。摂取すると腸で

吸収し肝臓や腎臓、筋肉

に移行することが知られ

ている。たん白質の合成

を促進すると強調し

た。内沢氏は「ジミエキ

チ」といふ

の筋肉増強補助作用や酸

素

を構成しない遊離アミ

ノ酸として体内に存在し

ている。摂取すると腸で

吸収し肝臓や腎臓、筋肉

に移行することが知られ

ている。たん白質の合成

を促進すると強調し

た。内沢氏は「ジミエキ

チ」といふ

の筋肉増強補助作用や酸

素

を構成しない遊離アミ

ノ酸として体内に存在し

ている。摂取すると腸で

吸収し肝臓や腎臓、筋肉

に移行することが知られ

ている。たん白質の合成

を促進すると強調し

た。内沢氏は「ジミエキ

チ」といふ

の筋肉増強補助作用や酸

素

を構成しない遊離アミ

ノ酸として体内に存在し

ている。摂取すると腸で

吸収し肝臓や腎臓、筋肉

に移行することが知られ

ている。たん白質の合成

を促進すると強調し

た。内沢氏は「ジミエキ

チ」といふ

の筋肉増強補助作用や酸

素

を構成しない遊離アミ

ノ酸として体内に存在し

ている。摂取すると腸で

吸収し肝臓や腎臓、筋肉

に移行することが知られ

ている。たん白質の合成

を促進すると強調し

た。内沢氏は「ジミエキ

チ」といふ

の筋肉増強補助作用や酸

素

を構成しない遊離アミ

ノ酸として体内に存在し

ている。摂取すると腸で

吸収し肝臓や腎臓、筋肉

に移行することが知られ

ている。たん白質の合成

を促進すると強調し

た。内沢氏は「ジミエキ

チ」といふ

の筋肉増強補助作用や酸

素

を構成しない遊離アミ

ノ酸として体内に存在し

ている。摂取すると腸で

吸収し肝臓や腎臓、筋肉

に移行することが知られ

ている。たん白質の合成

を促進すると強調し

た。内沢氏は「ジミエキ

チ」といふ

の筋肉増強補助作用や酸

素

を構成しない遊離アミ

ノ酸として体内に存在し

ている。摂取すると腸で

吸収し肝臓や腎臓、筋肉

に移行することが知られ

ている。たん白質の合成

を促進すると強調し

た。内沢氏は「ジミエキ

チ」といふ

の筋肉増強補助作用や酸

素

を構成しない遊離アミ

ノ酸として体内に存在し

ている。摂取すると腸で

吸収し肝臓や腎臓、筋肉

に移行することが知られ

ている。たん白質の合成

を促進すると強調し

た。内沢氏は「ジミエキ

チ」といふ

の筋肉増強補助作用や酸

素

を構成しない遊離アミ

ノ酸として体内に存在し

ている。摂取すると腸で

吸収し肝臓や腎臓、筋肉

に移行することが知られ

ている。たん白質の合成

を促進すると強調し

た。内沢氏は「ジミエキ

チ」といふ

の筋肉増強補助作用や酸

素

を構成しない遊離アミ

ノ酸として体内に存在し

ている。摂取すると腸で

吸収し肝臓や腎臓、筋肉

に移行することが知られ

ている。たん白質の合成

を促進すると強調し

た。内沢氏は「ジミエキ

チ」といふ

の筋肉増強補助作用や酸

素

を構成しない遊離アミ

ノ酸として体内に存在し

ている。摂取すると腸で

吸収し肝臓や腎臓、筋肉

に移行することが知られ

ている。たん白質の合成

を促進すると強調し